

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦
© JASE. 2018 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

第19回JFS性科学セミナー報告…………… 1	多様な性のゆくえ⑱…………… 13
第9回世界性の健康デーin東京報告…………… 7	性教育の現場を訪ねて⑳…………… 14
第10回北東北性教育研修セミナー報告…………… 10	今月のブックガイド…………… 16
思いこみのめがね⑳…………… 12	JASEインフォメーション…………… 17

◆第19回JFS 性科学セミナー報告

今こそ活かそう！ 性科学の知識

9月22日(土曜日)午後1時より名古屋市の「中日パレス」において、「今こそ活かそう！性科学の知識」をテーマに第19回JFS性科学セミナーが開催された。主催の日本性科学連合(JFS)を構成する6団体の代表6名が、それぞれの専門分野から講演を行った。講師等も含め、約250名の参加者で、会場は補助席を度々増やすほどの大盛況であった。

開会にあたり、日本性科学連合(JFS)の大川玲子会長が、日本性科学連合の成り立ちと構成団体の紹介、歴史、さらに今回のテーマ選定の経緯を紹介した。続いて、芽島江子氏(秀明大学看護学部教授)、高波真佐治氏(東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科教授)両座長のもとで、6名の講師が「今こそ活かそう！性科学の知識」をテーマに30分間の講演を行った。



以下、前半3名、後半3名、計6名のそれぞれの専門分野からの講演概要を紹介する。

前半は、午後1時10分より芽島江子座長のもと、3名の講演後、質疑応答が行われた。まず、日本家族計画協会の北村邦夫氏の講演が始まった。

性科学の知識を駆使して悩みを解決する

一般社団法人日本家族計画協会会長・理事長・家族計画研究センター所長の北村邦夫氏は、講演の冒頭を次のような話から始めた。



「最新の性科学について学ぶことを怠っている演者にとって、W.H. マスターズ+ V.E. ジョンソン著『人間の性反応』が座右の書となっています。1954年からスタートした人間の性反応に関する調査研究とはいえ、この結果を読み進むにつれ、長年にわたり悶々としていた疑問が晴れるのを感じました。仕事柄、講演や執筆の機会が多々あるわたしを感動させたのは

何か? 『人間の性反応』に描かれている研究成果の一端を紹介することとしたいが、参加者からは、今はその考えは間違っているよ、など忌憚のないご助言を賜ることができれば幸いです」と語り、男性の性反応と女性の性反応の違いを図解をまじえて解説された。

その後、女性の性交痛について、「【ジェクス】ジャパン・セックスサーベイ 2017」の調査をもとに、年代別の「性交痛のある女性の性的満足度」などの調査結果を解説。

最後に、「死ぬまでセックス」などという男性週刊誌の記事について触れた。抄録集から引用してみる。

〈セックスできるほどに元気だから結果として長生きになるという論理は成り立っても、セックスすると長生きできるなど科学的には何ら根拠のないことである。

M&Jによれば、熟年世代の健康を脅かしかねない危険な事態がいつ起こっても仕方のないことがわかる。男女ともに全身に現れる性反応として特筆すべきは呼吸数、心拍数、血圧、発汗など。性的興奮時に脈拍数が増加することは、かなり昔から知られていた。男女に大きな違いはないが、興奮期の次に起こる平坦期に心拍数は平均毎分100～160回、オーガズム期になると毎分100～180回。消退期には急速に正常に回復するとはいえ150～80回となる。成人の安静時の心拍数はおよそ毎分50～70回で、毎分100回を超える状態を頻脈というが、相当な負担が心臓にかかっていることになる。その一方で、マスターベーションでは正常時の毎分63回程度の脈拍がオーガズム期には毎分85～97回しか上昇していなかったという報告もある。相手あつてのセックスでは、心臓への負担が甚大になっているのだ。

呼吸数も通常成人では毎分10～20回程度だがオーガズム期には40回を数え、発汗については興奮期、平坦期、オーガズム期には特に反応しないのに、消退期には広範囲に発汗帯が出現する。

血圧の変化も著明だ。血圧は平坦期から上がり始め、オーガズム期には収縮期（最高血圧）で30～80mmHg、拡張期（最低血圧）で20～40mmHg上昇する。消退期になると正常に復するとはいえ、高血圧のある男女の場合、セックスによる瀕死の危険もあり得るとのことだ。このように、セックスには健康を脅かしかねない危険な側面もあることを知っておく

必要がある。〉

北村邦夫氏は、講演を「性科学を学ぶことは幸せのセックスを実現する近道」と締めくくった。

「知識は力になる」正確な性の知識を 学校現場にどのように伝えていくか

日本思春期学会の秋元義弘岩手県立二戸病院・久慈病院産婦人科科長は、①知らないことが起こす悲劇、②子どもたちにいつまでにどんな内容を届ければ良いのか、③どうやって届けるのか、④届けたい内容を届けるための工夫、⑤ライフスキルとして伝えるために、の5つの視点から講演された。



秋元氏は、「知らないことが起こす悲劇」について、次のように語る。

「ここ10年で10代の人工妊娠中絶率は減少しているが、その中心は18歳、19歳であり、13歳、14歳、15歳ではその減少率は他の10代よりも低い。平成26年度に報告された15歳未満の妊娠は346件、うち、43人が出産している。

また、10代で妊娠継続し、入籍したとしても幸せになれるとは限らない。厚生労働省の統計によれば、19歳以下でできちゃった婚したカップルの81.7%が離婚している。10代でシングルマザーとなったその女性が生活して、キャリアアップしていくことは非常に難しいし、そのあとに再婚できたとしても、ステップファミリーの家族のあり方の難しさは、支援者なら誰もが直ぐに納得できる。

こうしたことは、正確な知識を持つだけで、全く違った結果となった可能性は十分ある」と語った。

そのうえで、「いつまでにどんな内容を届ければ良いのか」、「どうやって届けるか」については、「伝えたい内容は、現場の教師、それが担任だとしても保健体育教諭であっても、いきなりできる話ではない。外部講師からの年に一度以上の講演は必要と考える。産婦人科医の場合、若年妊娠、出産、中絶の話は子どもたちにリアリティを持って伝えることができる。ただ

し、中絶のための器具を示したり、性感染症の写真を見せたり、ということを行うべきではない。リアリティを持って子どもたちが自分のこととして感じるような内容にすることと、見せしめ、脅しとは全く異なる」と言う。

知識を知るだけでは子どもたちの力にならないのは当然であり、伝える側に、ライフスキル、生き抜く力として身につけてもらうためには、という観点は必須である。デジタルネイティブとして生まれた今の子どもたちに、SNSは危険、ということだけ伝えたり、性行為のリスクだけを伝えたりしても何ら意味がない。リアルな問題は起こりうることなのだと、その現実を伝え、問題は起こらないに越したことはないが、もし、遭遇したとしてもそれですべてが終わりではないことを伝えることが重要である。そうした問題に自分が直面したときに、どうすればよりベターなのかを考えて欲しいこと、専門機関、専門職がそのために存在していることも伝えることが必要だという。

そして、「命は大切だと100回言われるよりも、あなたが大切だ」と言われることで生きていける。「あなたのことを心配している大人がいるのだ」ということを子どもたちが実感できれば、その子どもは何とか生き抜いていける可能性が出てくると考えている、と強調された。

やまとことばの中の性

日本性教育協会を代表して、公益財団法人レイ・パストゥール医学研究センター研究員・一般社団法人性と健康を考える女性専門家の会代表理事の早乙女智子氏は、「やまとことばの中の性」というテーマで講演された。



話題は、幅広く「性の権利宣言」から「古事記・日本書紀の国生み」まで、多岐に富んだ。

トピックを追って、講演の概要を紹介する。

まず、話は現代、世界性の健康学会(WAS)の「性の権利宣言」の内容と目的から。

「性の権利(セクシュアル・ライツ)は、望みうる

最高の性の健康(セクシュアル・ヘルス)を実現するために不可欠なものであるという認識のもと、世界性の健康学会WASは、以下を言明し、再確認する」という冒頭の言葉を紹介した。

避妊の歴史、コンドームの歴史、世界の国々のコンドームの呼び方、性感染症の歴史、性教育の歴史などを紹介しながら日本の性、「やまとことばの中の性」へと話をすすめた。

避妊の歴史では、「イタチの睾丸を脚に縛り付ける避妊法」「日本で最初のIUDは、ヤママユの天蚕糸で作られた」など。

避妊の歴史



- キャラバンのラクダの子宮に石を入れて妊娠を防いだ
- B.C. 3000 初期エジプト王朝
ヤギ、ブタの盲腸、膀胱(昆虫の咬刺から守る)
膈内に詰め物(ワニの糞、アカシアの種)
- B.C.700 「シルフィウム」SILPHIUM (Asapoetida Species) 絶滅ハーブ
- イタチの睾丸を脚に縛り付ける避妊法
- 日本で最初のIUDは、ヤママユの天蚕糸で作られた
子宮内避妊具(太田リング)開発者の太田典礼(1900-1985)は、
産児制限と安楽死を説いた
- 1950-1960 「コーラで洗浄」は『New Scientist』で否定論文

やまとことば＝日本古来の言霊

<夜這い> 平安時代の庶民の結婚
「三日の餅」で結婚成立 半年来なければ離婚
結婚するまでは、複数の人と関係を持つことも
<お七夜> 出生7日目に名前を付ける
男子32日目、女子33日目にお宮参り
<おー> おてて、おこわ、おなら、おちんちん
<ーもじ> しゃもじ、はもじ(恥ずかしい)
こよなく、心待ち、折り合う、恐れ入る、不躰など

神話の世界では、「伊邪那岐命(イザナギ)と伊邪那美命(イザナミ)の国生み・神生み神話ではオノゴロ島に天の御柱を建て、美斗能麻具波比(みとのまぐはひ)をしようと提案)や「夜這い」、「窪(女性器)」、「ふぐり(陰囊)」などの「やまとことば」の紹介や性の俗語などについて、日本文化と性について考える機会を与えられた講演であった。

後半は、高波真佐治座長の司会で、前半と同様に、3名の講演と質疑応答が始まった。

急増する梅毒

— 今、対策が求められています —

日本性感染症学会の東京慈恵会医科大学皮膚科学講座教授の石地尚興氏は、特に若い女性に増加傾向がみられるという梅毒の状況について講演された。



石地氏は、近年わが国では梅毒の症例が急増しており、特に若い女性に増加傾向がみられるという。先天梅毒も増え、都市部中心の流行であるが、地方都市にも波及してきている。流行の発端としては風俗関係の感染経路を疑う声があるが、風俗と無関係の女性の症例もみられており、すでに一般男女間の感染まで広がっていると考えるべきであるといい、風俗関連の従事者のみならず、一般男女にも梅毒に関する知識や予防の重要性を啓発していくことが急務であると、日本の現状を述べられた。



石地氏は、梅毒とは、どのような性感染症なのか、どのような症状なのか、を解説され、現在の診断方法と治療法を紹介した。

「梅毒の検査は病変から TP (梅毒トレポネーマ: *Treponema pallidum*) を検出する方法 (病原体診断) と血清学的に TP に対する抗体を検出する方法 (血清診断) の大きく 2 つに分けられるが、現時点で容易に調べることができるのは後者の血清診断です」と述べ、梅毒にはペニシリン製剤が有効で、戦後の流行もペニシリンを使用できるようになったために終息したという。現在諸外国において梅毒の治療の中心は持続型の

ベンザチンペニシリン G の筋注であるが、わが国ではペニシリンアレルギーによるショック死が発生したために使用できないのが現状で、ペニシリン製剤の内服療法が行われていると解説された。

講演の最後に、「現在わが国では梅毒の症例が急増しており、その勢いはいまだ継続中である。既に梅毒は一般の人たちのごく普通の性的活動の中で感染し得る疾患となっている。この流行をくいとめるには、単に診療の現場で早期発見と確実な診断治療につとめるだけではなく、予防啓発活動を広く一般市民まで広げて展開していくことが必要である」と強く述べられた。

陰毛脱毛の捉え方と性

日本性科学会を代表して、咲江レディースクリニック院長の丹羽咲江氏が、「陰毛脱毛の捉え方」をテーマに講演を行った。丹羽氏は、2002年1月咲江レディースクリニックを開院、2010年3月には思春期外来を開設している。毎日の診療以外に、中学校・高校・大学・少年院で性教育を行っている。その他にも一般女性を対象に「女性の健康」について講演活動なども行っている。



丹羽氏は、「日々診療を行っている、最近陰毛脱毛をしている女性の増加に驚くことがある。以前は年齢も若く、sexual activity が高い女性など、ある一定の傾向があったような印象を持つが、最近では 40～50 代の更年期世代にも陰毛処理をする女性が増えている」と述べ、陰毛脱毛の歴史と海外の事例、日本の現状を紹介しつつ、「はたして陰毛脱毛はするべきかしないべきか」という問いかけをされた。

丹羽氏は、「日々診療を行っている、最近陰毛脱毛をしている女性の増加に驚くことがある。以前は年齢も若く、sexual activity が高い女性など、ある一定の傾向があったような印象を持つが、最近では 40～50 代の更年期世代にも陰毛処理をする女性が増えている」と述べ、陰毛脱毛の歴史と海外の事例、日本の現状を紹介しつつ、「はたして陰毛脱毛はするべきかしないべきか」という問いかけをされた。

体毛や陰毛の処理は紀元前から始まって、古代エジプトでは体毛があることは不潔とされ、体毛が無いことが美しいとされていたことから、全身の体毛をカミソリ、ピンセット、ワックスなどで脱毛していたという。女王クレオパトラは砂糖やはちみつなどを混ぜて皮膚に塗り布を使用して剥がす除毛剤 (今で言うハニーワックスにあたるもの) を使用していたとの記載もあることを紹介された。

世界と比較して日本での陰毛処理の歴史は浅く、江戸時代から始まっており、女性よりもむしろ男性の方が陰毛処理を積極的に行っていた。江戸時代の男性は活動的に動くことができるように、着物を褌に挟む「尻端折り」というスタイルをしていたことから褌から陰毛が見えてしまうのはイキではないとされ、銭湯には毛切り石という陰毛を短く処理するための石が置かれていたという。

一方女性は男性ほど陰毛処理は一般的ではなく、遊郭で働く女性や風呂屋の湯女が中心であったが、その方法は毛切り石で処理するのではなく、性交時にチクチクとした不快感を与えないように、線香で焼く方法（今で言うヒートカッター）が一般的であったという。女性の陰毛処理の方法はしばらくはそのまま変わることにはなかったが、明治時代にはいつ和服から洋服へと変わると、腋毛^{わきげ}の処理が始まり、主に腋毛を中心としたムダ毛処理のための方法がその後開発され、1983年からレーザー脱毛が開始されるようになったという。

日本で陰毛処理の意識が高まり始めたのは、2009年に『Sex and the City』というアメリカで人気のドラマの劇場版で、陰毛処理をすることは当たり前というシーンが日本で紹介されてからで、同年、タレントの叶恭子が陰毛を完全に脱毛したヌード写真集を出して話題になり、陰毛処理をする脱毛サロンや美容皮膚科が軒並み増加、インターネットの普及によってより多くの陰毛脱毛の情報が発信されるようになり、現代の日本では陰毛処理が一般的になりつつあるのが現状であると解説された。

陰毛脱毛の方法には、「カミソリや電気シェーバー、ヒートカッター、毛抜きなどで自宅で行うセルフ処理、皮膚科で行う医療用レーザー脱毛、エステサロンなどで行う光脱毛など、やり方は多岐にわたっており、自宅で行うセルフ脱毛は手軽で簡単、安価ではあるが、肌へのダメージが大きいというデメリットがある。一方、皮膚科で行うレーザー脱毛やエステやサロンで行う光脱毛は、皮膚へのダメージが少なく、陰毛の再生が少ないが、パートナーに好まれない可能性があったり、銭湯などで他人の目が気になるといったデメリットがある。脱毛後のそのような悩みに対して女性向けアンダーヘア専門ウィッグも発売されるようになった」と語る。

また、陰毛脱毛は sexual activity が高い 20 代、30

代の女性が行うものと思われがちだが今はそうではない。自分の親の介護をする際に陰毛があることでおむつ交換などでスムーズな介護の妨げになりそうだと感じた 40 代、50 代の女性が「いつ介護されてもいいように」と脱毛する。脱毛で使用するレーザーはメラニン色素に反応し、白髪は残ってしまうため、陰毛に白髪がまだ生えにくい 40 代、50 代で脱毛するのだという。

丹羽氏は、講演抄録集の最後に、次のように記している。

〈かつて陰毛が少ないことは恥ずべきものとされ、子どもができないと考えられて結婚できない理由になった。そのため、当時の女性広告には「毛生え薬」というものさえあった。逆に陰毛が多すぎると「淫乱」とみなされ、性犯罪と結び付けられることがあった。

現代の女性が陰毛を処理する理由として、陰毛があると蒸れる、かゆい、ニオイが気になる、性交時に毛が引っ張られて痛い、下着からはみ出る、介護の時に煩わしい、そもそも陰毛が濃いことがコンプレックスで異性と付き合えないといったものがあり、陰毛を処理した後はこれらの煩わしさから解放される。

一方で、現代日本女性が陰毛処理に余念がないのは、江戸時代の女郎並みに性を売り物にしているからだとか、生殖のために必要な陰毛を無くしてしまうのはいかなものかという意見もある。

陰毛の処理はその時代や国の文化によってムダ毛であるかそうでないかが変化する。大切なことは、自分の体や性器を肯定的に捉えること、また陰毛を処理するのは自分の為であることである。〉

知ってる？ 膣内射精障害

—大規模インターネット調査の結果を交えて—

JFS セミナーの最後は、日本性機能学会から獨協医科大学埼玉医療センター泌尿器科・リプロダクションセンター准教授で、『泌尿器科医が教える正しいマスターベーション』などの著書がある小堀善友氏の講演が行われた。



小堀氏は、スマートフォン精液検査を開発し、実用

化させるなど主に男性不妊症分野において研究活動を行っている。

現在不妊症の可能性のあるカップルは6組に1組であり、その半分は男性に原因があるという。2016年の厚生労働省の調査研究によると、7,253名の男性不妊症患者を解析したところ、性機能障害（射精障害および勃起不全）が男性不妊症の原因の約13%を占めていると報告されている。その内訳は、勃起障害は6%であるのに対して、射精障害は7%であり、射精障害の患者の方が多かったという結果であった。

「性機能障害は治療可能な病態であり、生殖補助医療をstep downさせうる可能性もあるため、原因の特定および治療法の検討は急務である」と小堀氏は語る。

不妊治療の現場では、重度の遅漏である膣内射精障害（マスターベーションでは射精できるが、性交時に膣内に射精できない状態）患者が多数存在する。その原因として、半数以上は不適切なマスターベーションと考えられるので、「インターネットを用いて射精障害とマスターベーションに関する大規模実態調査を施行し、評価を行った」と述べ、その報告をされた。

インターネットによる射精障害調査の対象は、20～77歳の男性486人で、対象者に対して勃起障害と射精障害（早漏・遅漏）に関する調査を行っている。

各年代とも10%前後の割合で、勃起障害が見られたという。各年代ともに半数近くが自己を「早漏、もしくは早漏気味だ」と判断、その傾向は30代と40代に顕著に見られたが、一方自己を「遅漏、もしくは遅漏気味だ」と判断した男性も各年代に10～20%ほど認められたという。遅漏と自己判断したりプロダクティブエイジである20～40代男性の中で「半分もしくはそれ以上の割合で膣内射精できない」と回答する男性が5.59%認められ、その中の多くが「遅漏であることを悩んでいる」と回答しているという。

小堀氏は、15～64歳の男性5,279人に対して、マスターベーションに関するアンケート調査も行っている。

マスターベーションの頻度は、全体として週に1～2回が30.7%と最も多く、若年者に多い傾向があったという。マスターベーションの方法は、全体として手を上下動かすピストン運動によって刺激するが95.4%であったが、全体で20%以上の男性が膣内射精障害の原因となる不適切なマスターベーションを経験してお

り、30歳代以下では10%以上の男性が日常的に床オナを行っていたという結果あったと報告。

小堀氏は、男性のマスターベーションを再考する必要があるといい、次のように話す。

「セックスや性行動に関する調査は1930年のKinseyより報告されたレポートをはじめとして多数認められるが、マスターベーションに関する調査は非常に少ない。その理由は、マスターベーションは個人的な習慣であり、調査の必要がなかったためと考えられる。しかし、本邦に多く見られる膣内射精障害の原因の半数以上が不適切なマスターベーションであると報告されており、現時点におけるマスターベーションの大規模調査は意義深いものであると考えられる。本調査では、多くの若年男性が膣内射精障害の原因となりうる不適切なマスターベーション（床オナなど）を日常的に行っていることが明らかになった。また、遅漏である人ほどグリップの強さが強いことや、若年者はスマートフォンを用いてマスターベーションをしていることが判明した。若年層は手用的マスターベーション以外の実践だけでなく、新たな方法への関心も高く、性行動の多様化を認めた。

今後の膣内射精障害を予防していくため、不適切なマスターベーション方法を行わないように啓発していく必要がある」と講演を締めくくられた。



補助席まで満席になったセミナー会場

翌9月23日（日曜日）には、同じ会場において第38回日本性科学会学術集会在「次世代につなぐ性科学」をテーマに開催された。

なお、次の第20回JFS性科学セミナーは、2019年10月5日（土曜日）に、鹿児島市の鹿児島県医師会館で開催される予定である。

◎東京性教育研修セミナー 2018 夏／第9回世界性の健康デー in 東京報告

◆シンポジウム◆

私の納得できないはなぜ起こる??

9月2日(日曜日)第9回目となる「世界性の健康デー」が東京・四谷の持田製薬株式会社ルークホールで開催された。午前10時から、3階の大会議室等で性に関する活動をしている民間団体のブース出展が行われ、午後1時30分からは、2階のルークホールで「私の納得できないはなぜ起こる??」をテーマにしたシンポジウムが開催された。

はじめに

実行委員長の早乙女智子氏は、開催案内に次のようなメッセージを寄せている。

「性の健康」というイメージしにくいかも知れませんが、性はその人らしさを表現するのに重要です。自分自身がどういう人で、周りの人や大事に思う人とどう付き合っていくのか、実はそこには様々なプロセスがあります。今年のテーマはシンプルで当たり前のようですが、改めて考えてみると奥が深いことです。午前中のブースも、午後のシンポジウムも、工夫を凝らして準備しています。」

5つのブース

ブースは5つの団体や個人が出展。それぞれに趣向を凝らした展示や情報提供を行っており、来場者も興味深そうに聞き入っていた。

例えば、性交時痛を和らげるゼリーを販売している企業と緊縛師さんが合同で出展した企画では、普段触れることのない「緊縛」というものについて、安全に手を縛るミニ体験や、それを介したカップル間のコミュニケーションについてなどの話題も出ており、参加者のなかには長時間留まって熱心に聞いている人もいた。

参加者の「性被害女性の駆け込み寺カウンセラー」ゆりりんさんは、参加された感想をブログに次のよう



午前10時からのブース会場の様子

に記している(内容はその一部)。

〈ゲームコーナーなど性にまつわる活動をする人たちのブース出展、日本や世界の避妊具など名前や説明がなかったのでお話をうかがいました。

これね自分で精子の数を調べられるキッドなんだってー！ 今話題の!? テンガの商品、こんなのがあるなんて、はじめて知ったし、はじめて聞いた。

男性は仕事で忙しかったり、病院に行きづらかったり、するだろうから便利だね。

世界にあるセックスミュージアム、世界中にあるんだ〜！、以前行った群馬の性と命ミュージアムもその一つで秘宝館などもこの部類に入ってるんだって。〉

詳しくは、ゆりりんさんのブログ(下欄外アドレス)を参照。

もう一人、「自然妊娠トータルプランナー」坪井アツヤさんのブログから(内容はその一部)。

〈3階の展示スペースへ行けば興味あるブースが3つもありました！

1つ目が、「日本にセックスミュージアムを作りたい！」という熱い想いを持つイロタカさんによる「セックスミュージアム設立準備委員会」。イロタカさんはとても勉強熱心な方で、行動力もすごい。今後、私も何かお手伝いできることがあればと思っています。



セックスミュージアムについて熱く語るイロタカさん

2つ目がID ローション（潤滑ゼリー）で有名な「うるおいヘルスケア株式会社」さん！ 私は『妊活セミナー』を行う時、お勧めの潤滑ゼリーとしていつもID ローションを推奨しています。社長の小林さんがローションと潤滑ゼリーの成分を丁寧に説明してくれ、とても勉強になりました。

3つ目が、緊縛の本も出している女性緊縛師の荊子（イバラコ）さんの「緊縛ブース」。

素敵なお笑顔で私たちを出迎えてくれ、簡単な縛りのレッスンをしてくれました。手際よく（モデルになった）助産師 M さんを縛っていきます。初めて縛られた M さんは「そんなに痛くないかも」という驚きと感動の表情をしていました。〉

坪井さんのブログは、下欄外アドレスを参照。

坪井さんは、午後のシンポジウムについて、次のように記している。

〈性教育からトランスジェンダーまで幅広く性について考えるイベントであり、多くの教育関係者や医療関係者が東京都新宿区四谷に集結。私が尊敬する早乙女先生やゲストの方々の貴重なお話もたくさん聴けました。

日本の性教育は世界的に見て10年遅れていると言われており、中学校の性教育にかかる時間は年間であった3時間位とのこと！ 国語・数学などの必須カリ



ブースでの展示物の一部

キュラムの合間に行なう程度なので、子供たちは性の知識が低いまま高校や大学へと進学していきます。

これからは学校のフィールド以外で子供たちへ性教育を指導する大人が増える必要があると、イベントに参加されていた中学校の副校長さんが熱く語っていました。

性教育が進むことで、中絶や性感染症、そして不妊に悩むご夫婦の数にも大きな変化が出てくると私は思っています。〉

ラジオ風シンポジウム

シンポジウムは、午後1時30分より2階のルークホールで開催された。テーマは、「私の納得できないはなぜ起こる」。シンポジウムは、参加者の疑問や質問に答えるかたちで進行された。

シンポジストは、畑野とまと氏、青木伸吾氏、打越さく良氏と、産婦人科医でWAS学術委員の早乙女智子氏の4名。モデレーターは、WAS YOUTH INITIATIVE メンバーの柳田正芳氏。

畑野とまと氏は、26歳からトランジションを始め、29歳でトランス女性として再出発、1996年に国内最初のトランスジェンダーホームページを開設している。

現在は、ライターをしながらトランスジェンダー活動家として情報発信をしている。トランスジェンダーとは何か、その歴史的な動きや定義について分かりやすく解説された。

打越さく良氏は、日弁連両性の平等委員会委員、同家事法制委員会委員等を務め、別姓訴訟弁護団副団長、医学部入試おける女性差別対策弁護団代表で、特



ラジオ風シンポジウムの様子

に、DV 被害者や虐待を受けた子どもの支援を行っている。夫婦間DVの実像「性的同意」の問題や裁判所での二次被害などについての発言があった。

青木伸吾氏は、若年性認知症家族の「性と生活の知恵によるレジリエンスの一考察」などを発表している、NPO 法人ふくし住まい支援の会の設立者。青木氏は、ものの見方・考え方の問題、「決めつける」「分かっている」ということの危うさなどについて。また高齢者の性について、介護施設のセクハラ問題など具体的な例をあげて発言された。

早乙女智子氏は、産婦人科医として医療の現場に携わるとともに、世界性の健康学会（WAS）の学術委

員など多方面で、性の健康、性の権利に関する活動を行っている。

シンポジストそれぞれのフィールドから具体的な事例にもとづいた発言があり、来場者はときに楽しく、ときに笑いながら、ときに日本の現状へのやるせなさや怒りを持って、話に聞き入っていた。

登壇者からの話題提供は学術的な話や現場の話、余談的な話とさまざまな角度からあったが、何が心に残ったかは人それぞれだったようで、来場者によってうなずくポイントが異なっていたのが印象的であった。

たとえば、畑野とまと氏が「トランスジェンダーの定義」について触れた場面などでは、会場全体から「理解が深まった！」という感じの嘆息が聞こえた。

すでに紹介したゆりりんさん、坪井さんの感想ブログのほかに、池川友一都議会議員も今回の「世界性の健康デー」のシンポジウムについて感想をブログに簡潔にまとめ紹介しておられる（下欄外アドレス参照）。

主催：世界性の健康デー東京大会実行委員会

協賛：日本性教育協会

後援：日本性科学、日本思春期学会、日本性機能学会、日本性感染症学会、性の健康医学財団、国連人口基金東京事務所、日本家族計画協会。

https://blog.goo.ne.jp/u1_ikegawa/e/725c1e0c4417f245f056c63400ce9faf

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っていません。

【開室日・時間】月～金曜日 10:30～17:30

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※この他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

資料室 利用方法

収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<http://www3.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>

◎第10回 北東北性教育研修セミナー報告／第9回 世界性の健康デー記念講演

より安全に、より健康に。 セックスワーカーの現場から。



北東北性教育研修セミナー実行委員会共同代表 宇佐美翔子

2018年9月1日（土）青森県男女共同参画センターアピオにて第10回北東北性教育研修セミナーを第9回世界性の健康デーを兼ねて開催した。

かつて開催地の青森市には、赤線と青線があった。それを知る人も年々少なくなっている。しかし、セックスワーカーは、今も連綿としてある。果たしてそれを、私たち自身が身近な隣人としての感覚を持って、ともに在ることができていたのかと問い直す機会にもなった。セックスワーカーを語る多くの場合、私たちの耳に入るのは、救済の必要な人としての存在だけである。肯定的な話の場合は好きでやってるんだから放っておけとなる。そんな社会に対し、より安全に健康に働くという視点での話を聞く機会は、性の健康を考えるうえでも重要なことだと思う。

性の健康を考えると、私たちはすべての人、すべての職業人を想定しているのか、と疑問に思ったからでもある。限られた条件の人たちの性の健康ではなく、様々な人の性の健康を考えることにより、すべての人に共通する「性の健康と権利」を守るために必要なことはなにか、を学ぶ機会が必要ではないだろうか。

今回は、SWASHの要友紀子さんをお招きして、セックスワーカーへの差別や偏見、そして暴力のない社会のためにはなにが必要なのかをお話いただいた。

セックスワーカーの現状

現在の風俗の多くはデリヘルの形態をとっており、

犯罪はその仕事場となるラブホテルで起きているという。警察庁情報公開室で調べたところ2000年～2011年にラブホテルで起きた凶悪犯罪件数は、26772件、この中にセックスワーカーに対するものが何件あったかはわからないが、これらは風俗が合法化し店舗型になれば起こらない事件もあるといえるという。

現在の法律では新しく店舗を作ることが認められておらず、店舗が老朽化すれば建て直しはできず、必然的にデリヘルなどの無店舗型の形態が増えて行くことになる。このデータではセックスワーカーに対する事件か一般の方の事件かは判別できない。セックスワーカーの被害は数字には出てきずらいことにも留意が必要だという。自分がセックスワーカーであることを第三者に打ち明けている人はきわめて少ない。セックスワーカーが被害にあった事件かどうかを知るのは、現場に駆けつけた警官か家族など、ごく近い存在や、打ち明けられている人間にしかわからないことになる。

自分の仕事を隠さなければならないという状況は、被害をも隠さなければならないことにもつながる。「してはいけない仕事」「職業として望ましくない」というステイグマがあるため、被害について声をあげることも躊躇するという状態である。一般女子の被害であればニュースになるが、セックスワーカーの被害は多くの人には無関係だからという理由で、ニュースにならないというメディア関係者の返事もあったそうだ。

メディアのニュースにはならないセックスワーカーの事件の裁判傍聴に行くようにしているという要さんの話は、私たちがほとんど耳にしたことがないものであった。

ストーカー規制法の成立で、被害のデータが取れるようになった。それは桶川ストーカー事件が起き、それを契機にストーカー規制法ができたためである。言

い換えれば、凶悪な事件が起き世論が動かない限り、正確なデータは取れないということでもある。

1999年の風営法改正以降、派遣型風俗（デリヘル）が最もメジャーな性産業になってきた。個人交渉ではなく、お店という管理形態の中で働くので、時間管理や送迎などで周囲が異変に気付くという点でいくらかはマシと言える。しかし、仕事場が、ラブホテルや個人宅であることから完全に安全とはいえない。また、非本番であるので例え感染症の予防の為にコンドームを持つとしても、それを禁じる（コンドームを持っているということは本番をしている証拠にされる恐れがあるため）店も多く、セックスワーカーのセクシュアルヘルスを守るのが難しいという法的に矛盾した実情もあるという。

セックスワーカーの働き方は法律の動向が大きく関係している。だからといってセックスワーカーの性の権利、性の健康が保障されたわけではない。

男性のセックスワーカーについても話された。男性客を対象とした男性セックスワーカーの存在をイメージしにくだろうということから、新宿2丁目のウリ専（性的サービスを提供する店舗）に働く人を題材にしたドキュメント動画を見せてくださった。トランスセックスワーカーについても話された。セックスワーカーの全体像のすべてとは言わないが、これまでの狭い視野を広げ、考える機会となった。

セックスワーカーと法律

セックスワーカーが現在置かれている状況を分析すると、法律の改正内容は、働く上での安全や健康の確保に大きく影響する。現在、売春防止法の改正が具体化されつつあるが、そこにセックスワーカー当事者の声が反映されているだろうか。改正では買春者処罰が明記されるという。買う側を罰すると、どのような結果になるか、既に多くの国で結果は出ている。

買い手側、つまり客を罰するとセックスワーカーたちは買い手を守らなければいけなくなる。守るためには、今より秘密裏に仕事をしなくてはいけなくなる。セックスワーカー自身は捕まらないとしても、買い手が捕まってしまうと仕事ができなくなるからである。

セックスワークについて無知な人たちが法律を決めることには大きな問題がある。当事者の意見や状況を

知ることが重要だ。HIV/AIDSの予防啓発や支援の現場には、必ず当事者が入っている。セックスワーカーの問題もHIV/AIDSの活動のように議論の場で当事者の声を聞くことは必要なことである。

セックスワークに限らず性に関わる問題は、とかく社会の動向に左右されやすい。社会全体がどのような感覚でいるのか、それが性に関する動きに鏡のように映し出される。被害について着目する傾向が強ければ、人はその場面、表面的な現象だけを見てしまい、その背景には何があるのか、見ていない。

今回、セックスワークの現場からというテーマでお話いただくことにより、参加者の意識も変わり、また今後の着眼点も変わっていくだろうと感じた。

世界性の健康デー記念講演「より安全に、より健康に。セックスワークの現場から。」は、こうした現場からの視点を持つことの重要性を示唆しつつ、閉会となった。

おわりに

北東北でセックスワークをしている人口はどれくらいいるだろうか。

コンビニなどで手に入る冊子にある風俗店は何軒になるだろうか。

セックスワークで生活はできているだろうか。安全に働けているだろうか。

相談できる場所はあるだろうか。セックスワーク自体への知識があり、話が聴ける人はどれくらいいるだろうか。

今回の講演を機に、セックスワーカーの現場を知り、北東北でのセックスワーカーの置かれている立場や環境を、具体的に考えられる人が増えることを心から願っている。

追記：北東北性教育研修セミナーでは、これからも性に関する学びを地域のみならずと共有していくための企画を立てていきます。

取り上げて欲しいテーマ、問題、課題、ジャンルなどありましたらお気軽にご連絡ください。

rc-net@goo.jpへメール、もしくは、

〒030-0903 青森市安方1-3-24（北東北性教育研修セミナー事務局）まで郵送にてご連絡ください。

思いこみ の ゆがみ

シゲせんせーのポジティブライフ

鈴木茂義 Suzuki Shigeyoshi



公立小学校非常勤講師。14年間の公立小学校正規教諭、主任教諭を経験。専門は特別支援教育、教育相談、教育カウンセリングなど。

初対面の人に「お仕事は何ですか」と聞かれたら、「小学校の先生です」と答えます。するとほぼ確実に「小学校の先生ですか、大変ですね。モンスターペアレンツとか」という返事が返ってきます。学校の先生＝大変＝モンスターペアレンツというイメージが、ステレオタイプだなあと時々げんなりしてしまいます。学校の先生のよさを伝えていくことも、自分の役割かなと考えています。

とはいえ私も、自分の性的指向を社会的にカミングアウトしたときは、保護者の反応がとても気になりました（保護者の反応が気になるからこそ、今までカミングアウトしなかった・できなかった部分もあるからです）。

「担任の先生がゲイだなんて信じられない」「安心して子どもを通わせることができない」と言われるのではないかと思っていました。カミングアウトをするなんて、全く考えていませんでした。

私のカミングアウトを耳にして「気持ち悪い」「そんなこと言わなくていいのにね」というネガティブな反応がほんの少しありました。ただこれは人づてに聞いたことで、私に面と向かって直接それを伝えてきた人はいません。

退職後に、ある保護者と再会したときです。その方からは「保護者たちは、シゲせんせーが子どもたちとどんな風に授業を行い、どんな風に子どもと向き合い、どんな風に保護者と向き合ってきたかしていますよ。あなたは学校の先生として十分に仕事をしてくれた。だからその先生がゲイであろうとなかろうと、そんなことは関係ない」と言っていました。「ゲイの先生は人から認められないんだ、ダメなんだ」と思い込んでいたのは自分だけだったことに気づかされました。

卒業生の教え子の、中学校の体育祭に行ったときには、たくさんの保護者に会いました。私を見つけ、保護者の方から声をかけてくれる人もいました。「シゲ

せんせー、ネットの写真を見ましたよ」「勇気を出しましたね」「子どもと一緒に話しましたよ」「今は珍しい話じゃないですものね」と、保護者のみなさんが感じたことをたくさん聞くことができました。「保護者も日々忙しいから、いちいち先生がゲイかどうかなんて気にしてられないのよ」(笑)、「シゲせんせー、私は実は気づいていたけどね」(笑)、という反応には、思わず笑ってしまいました。

私のカミングアウトが、自己開示の呼び水になったのでしょうか。「シゲせんせー、実は私も〇〇なの」「昔、私もこんなことがあって…」と、保護者からカミングアウトされることも増えました。私も知らなかったことばかりでした。目に見えても見えなくても、保護者にもいろいろなことがあるのだなと気づきました。

私のカミングアウトに気づいてくれたのは、教え子のある男の子でした。その男の子は、私のカミングアウトとその写真をお母さんに見せたそうです。中学校の体育祭を後

にしようとしたとき、その男の子のお母さんに呼び止められました。

「シゲせんせーにどうしてもお礼が言いたくて」とお母さん。「先生、子どもから先生の話聞いて、息子に伝えたことがあるのです。世の中っていろいろな人がいますよね。それを息子にもわかってほしくて、先生の写真を見せながら話したんです。世の中にはいろいろな人がいるのだから、あなたもそれを覚えておきなさいって。普段子どもとそういう話をするのがなかったのですが、シゲせんせーのおかげです。大事なことを息子に伝えることができました。本当にありがとうございます。いつか、卒業生の前で講演会ができるといいですね」。私はとても嬉しい気持ちになりました。

これからもまた「小学校の先生ですか、大変ですね。モンスターペアレンツとか」と言われるかもしれません。そのときは「いや、保護者とかかわることは楽しいですよ。子どもの豊かな学びと育ちを支える運命共同体ですからね!」と答えようと思います。

第8回

「ゲイであろうとなかろうと」 先生のカミングアウトと保護者

多様な性
のゆくえ

One side/No side [19]

付き合って16年目のカップル

世の中、いろいろなことが起こるのでつい忘れ
てしまいそうだが、今年の夏はとんでもない暑さだっ
た。第25回 AIDS 文化フォーラム in 横浜はその猛暑
まっさかりの季節に横浜駅西口の「かながわ県民セン
ター」で開かれている。

1994年に横浜で第10回国際エイズ会議が開催され
た際、高額な会議登録料を負担せずに参加できるイベ
ントとして、エイズを幅広く社会、文化的な視野でと
らえるフォーラムが地元で企画された。それが夏の
恒例行事として定着し、今年で25回の節目を迎えた。
スタッフの皆さんの熱意と持続力に敬意を表したい。

開催は毎年8月の最初の金～日曜なので、オープ
ニングは平日（金曜）午前という人が集まりにくい時間
帯になる。このため開会式会場に空席が目立つ年もあ
ったが、今年（8月3日）は入り口に長い行列ができ
ていた。しかも、比較的、若い女性が多い。

「どうしたの？」とスタッフに少々ぶしつけな質問
をすると、「かずえちゃんでしょうね」という。オー
プニングのトークセッションに人気 YouTuber の「か
ずえちゃん」が出るのでファンが集まったようだ。

あらゆる分野で不明を恥じ続けているおじさんは、
あわてて YouTuber を調べる。「自作動画を You
Tube 上で公開する人」であり、職業的に成立可能な
方もいるという。もちろん収入は大切だが、情報の発
信者として重要なのは伝えたい何かがあることだろ
う。かずえちゃんの YouTube チャンネルを見てみよ
う（文末アドレス参照）。

概要欄には「LGBT の事をもっとみんなに伝えたく
て2016年7月から YouTube を始めました」とある。
その経緯については概要欄をみていただくとして、8
月22日には『僕らのカミングアウト』という動画シ
リーズで『僕の彼氏は HIV です』というインタビュー
が掲載されている。ゲストは郁さんと義さん。サブ
タイトルにもあるように、付き合って16年目のゲイ
カップルであり、5年前に名古屋で結婚式を挙げている。

義さんに会ったとき、郁さんはすでに HIV（ヒ

ト免疫不全ウイルス）に感染していたという。

郁さんが感染を知った経緯、義さんに伝えた時期、
その時の義さんの気持ち、結婚式を挙げた時の様子な
ど、話は比較的、淡々と進んでいく。かずえちゃんは
数多くの性的少数者やその周囲の人にインタビューを
重ねてきてはいるが、HIV/エイズについてはあまり
詳しくなかったようで、ごく基本的な質問も多い。

ただし、同性間のカップルへの共感を共通の基盤と
して質問がなされ、それに郁さんと義さんが丁寧に
答えていくので、LGBT の課題には関心があっても
HIV/エイズにはあまり関心が持てなかった人、ある
いは私のようにその逆である人にとっても、無理なく
理解を共有していけるような安心感と安定感がある。

これはただものではないぞと思いながら、25分弱
のインタビューを一気に見終えてしまった。

郁さんは HIV/エイズ分野の支援や啓発活動を続け
ている特定非営利活動法人ふれいす東京のスタッフで
あり、HIV に関連した相談や情報・知識の提供に関
しては、最高のエドューケーターの一人だと思う。

ふれいす東京のイベントなどで、お二人を見かける
機会は私にもしばしばあったが、カップルとしての関
係などをそれほど詳しくお聞きしたことはない。ま、
個人的なことはそっとしておきましょうという一つの
作法のようなものも必要な場合が多いのだが、一方
で、ご本人が自ら望んで話をできるような機会の確保
というものも、「伝える」という機能を担うメディアの観
点からは重要になる。改めてそんなことを考えさせら
れる好インタビューでもあった。

あくまで推測だが、8月の AIDS 文化フォーラムへ
の参加と郁さん義さんへのインタビューは、準備期間
を考えれば、この春あたりからほぼ同時併行的に進め
られたのではないかと思う。たちまちブーメランが返
って来ることを覚悟で言えば、新旧の様々なメディア
には LGBT と HIV という2つの課題をつなげる役割
を担えるよう、さらに工夫を重ねることを期待したい。

<https://www.youtube.com/channel/UC6WcDW527KWU4eE90aWPh4g>

[茨城県立波崎高等学校] (下)

性に関する正しい知識と、 結婚や妊娠の素晴らしさを伝えたい

毎年継続して学年ごとの性教育講話の授業を行っている茨城県立波崎高等学校。実践の中心となる津嶋純子養護教諭の努力で、1年生はクラスごとに行う取り組みが実現した。教職員の協力や講師の工夫もあって、生徒たちも興味をもって講話に参加しているという。今回は、各学年の講話の内容を紹介する。

「生と性について考える」1年生の授業

波崎高等学校で行われる性教育講話の授業は、1年から3年までの性教育のテーマを毎年変えずに行うために、全生徒が3年間ですべての講話を受講できるようになっている。

具体的にどのような授業が行われるのか、まず1年生の指導の流れを紹介しよう。

1年生は、道徳で行う『命を大切にしよう』の授業と関連して考えられるよう『生と性について考えよう』というテーマで、各クラスごとに50分ずつの授業が行われる。

「1年生は高校になって最初の性教育の授業ですから、生命誕生から性感染症、そしてライフプランまでを幅広く国保旭中央病院の看護職員にお話を聞いています」と津嶋純子養護教諭。

「生」については、「1つの生命の誕生」と題して受精から、おなかの赤ちゃんの様子、人が生まれる過程などをパワーポイントで視覚的に見せて、出産までのお母さんや家族のうれしい気持ちや赤ちゃんを大切に思う様子を伝えていく。またひとりひとりがかけがえない大切な命であることを、出産直後のお母さんと赤ちゃんの対面シーンの写真などを見せて、より具体的に生徒に伝えていくという。

性感染症では「性器クラミジア」と「AIDS」をとりあげる。

「ここでも講師の先生は、視覚的に生徒たちに見せる工夫をしてくださいます。たとえば、HIVの治療薬。かつては1日に両手いっぱい、30錠*ほど飲まな

茨城県立波崎高等学校

校長 西谷尚衛

生徒数 577名 (男子426名、女子151名)

教職員数 69名

(2018年7月現在)

くてはいけませんでした。話だけだと、生徒も『ふうん、そうなんだ』で終わってしまいますが、講師の先生が、お菓子のマーブルチョコレートを治療薬に見立てて、両手のひらいっぱいのにせて示すと、生徒たちは『へえ〜』と驚きの声をあげ、興味深そうに話を聞いています」という。

また、AIDSの基礎知識をクイズ形式で示したり、積極的に生徒たちに質問をして、生徒たちの授業参加を促す。

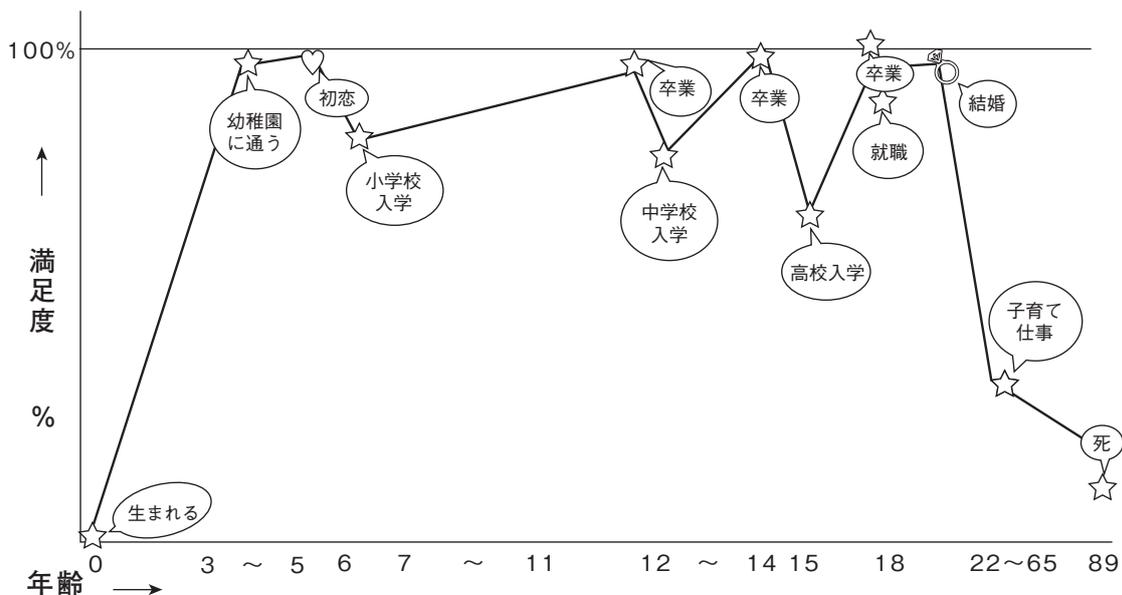
津嶋養護教諭によると「クラスごとに行う講話は、少人数なので生徒たちは授業に参加しやすく、より身近なこととして受け止めている印象がある」という。

最後に女性にとって妊娠・出産できる期間は限られていることを伝えて、授業の終わりには、生徒たちに自分のライフプランを書いてもらうそうだ。

クイズ形式で楽しく学ぶ2年生の授業。

2年生の授業は、学年全体で体育館に集まって行われる。テーマは「性の役割・性感染症・AIDS・妊娠について」。日本のHIV/AIDSの話から始まって、性感染症の話では、「コンドームを財布に入れて保管するのは○か×か」「コンドームは射精する前に装着すれば避妊できる。○か×か」と、講師が生徒たちに○×クイズを出題する。

*現在は、1日1回1錠の処方主流になっている。



女子生徒が作成したライフプランの一例：「女子の場合は、結婚、妊娠・出産ころから満足度が急降下するグラフが多い。妊娠・出産に興味がないような印象を受けます」（津嶋養護教諭）

「『人には聞きにくいことだけれど、絶対に知っておきたい避妊の基礎知識』に生徒たちは興味しんしん。身を乗り出して話を聞いています」。

ほかにも寸劇があったり、講師が国保旭中央病院の看護職員であることから、性感染症の広がり方を示す感染実験を盛り込んだりして、生徒たちを飽きさせない。最後に人工妊娠中絶などについても伝えるが、妊娠のリスクだけに終始しないよう、結婚や妊娠の素晴らしさも伝えることを心がけているという。

「デートDV」をテーマにした3年生の授業

3年生は学年全体で「デートDV」について学んでいく。「講師はDV被害者支援民間機関『アウェア』さんをお願いしています」。

デートDVはとても身近な問題であること、ひとことで暴力といっても、肉体的暴力、精神的暴力、経済的暴力、デジタル暴力などさまざまな種類があるということ。

また、恋人同士の間で交わされる『尊重のある会話』と『尊重のない会話』、どのような違いがあるのか、なども講話の中に具体的に示してもらっています。最後にDV被害にあった場合は、信頼できる大人に相談することをすすめ、相談機関も紹介していただきました」（津嶋養護教諭）。

妊娠・出産・子育ての素晴らしさを

学校全体の性教育の講話から、学年ごとに行う性教

育にかえて、今年で9年目。生徒たちの感想文には、「どんな理由があろうと（人工妊娠）中絶は望ましくないことであるし、そうならないように避妊はしなければならぬと思いました」（2年生）、「デートDVの怖さを理解することができた。とても勉強になった」（3年生）など、性教育を学んでよかったという声が数多く寄せられる。

生徒たちの感想が励みになるという津嶋養護教諭だが、一方で最近気になることがあるという。

「生徒が書くライフプランのことです。女子にライフプランを書かせると、結婚後は『満足度』が急降下したグラフを書く子どもが多いのです（上図参照）。

結婚、そして妊娠・出産、子育てになるとなぜ満足度が急降下するのか。どのように伝えれば、妊娠・出産・子育ての素晴らしさが子どもたちの胸に響くのかを、今後の課題として考えていきたいと思います」。

同時に女性の場合は、妊娠・出産の適齢期などについて、このことも生徒たちの心に届くよう、もっとしっかりと伝えたい。また我々教師が子どもたちと日々接する中で、結婚や子育てに興味をもたせるようにその良さを伝えていきたいという。

「性に対する知識がないために、望まない妊娠をして、人工妊娠中絶という道を選ぶのはとても悲しいこと。ひとりでも多くの生徒が幸せになれるようにとの思いで性教育に取り組んでいます」と熱く語る津嶋養護教諭。今後の取り組みに注目したい。

（取材・文 エム・シー・プレス 中出三重）

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

多角的に知り、考える

本書は、セックスワーカーの健康と安全を目指して活動する当事者主体の団体SWASHと、性暴力サバイバーの支援を行っている団体RC-NETが2017年4月・11月に共催で開催した「セックスワーカーのためのアドボケーター養成講座」の内容をもとに、講座の講師を務めたメンバーを中心に13人の執筆者によって新たに全編書き下ろされたものだ。

筆者は残念ながら講座には参加していないが、参加者募集のチラシはSNSで目にしており、多様な講師陣による多様な切り口の充実したプログラムに感嘆して隅々までじっくりと見た。開催後にやはりSNSでたまたま読んだ参加者の感想も熱にあふれていて、さぞかし素晴らしい講座だったのだろうなあと感じていたので、講座の内容が一冊の書籍としてまとまったと知った時には個人的にとっても嬉しかった。そして実際に読んでみて……個人的に嬉しいなんてことは吹っ飛び、これはセックスワーカーに関わる人だけでなく、性教育、性科学、広く性に関わる仕事をしている人はみんな読んだ方がいいし、手元に置いて何度でも読み直し、参照してほしい!と思った。

13人の執筆者は、セックスワーカー当事者、そして長年セックスワーカーに関わってきた研究者、支援者、ライターたちである。構成は3部に分かれ、第1部は「社会の中のセックスワーク」。社会的、歴史的、法的にセックスワークとセックスワーカーがどのように捉えられてきたのかがまとめられている。第2部「セックスワーカーの権利を守るには」では、セックスワーカーが権利の主体であることを確認した上で、どのような権利侵害が起きているのか、その現状をどのように変えていけばいいのかを提起されている。第3部「セックスワーカーとの関わりかた」は、実践の



セックスワーク・スタディーズ

当事者視点で考える性と労働

SWASH 編
日本評論社
定価 1900 円+税

場で起きたさまざまな具体例に触れながら、支援者や表現者はどのようにセックスワーカーと関わっていけばいいのかを考えられる内容となっている。

各部の終わりに、トランスジェンダー、ゲイ男性、子どもとセックスワークとの関わりについて書かれたコラムが配されているなど、女性だけではないセックスワーカーの多様な属性に目配りされているのも本書の特筆すべき点だろう。さらに巻末には、用語集、日本の性風俗年表、日本の性風俗産業の一覧表、SWASHのWEBサイトで入手できる資料案内が付録として掲載されている。

ところで、ここまで「セックスワーク」「セックスワーカー」という言葉を注釈なく使ってきたが、読者の中には耳馴染みのない言葉だと感じている人もいるかもしれない。「セックスワーク」という言葉には、性的サービスの提供を「労働」として捉え、労働者としての権利を獲得し、より健康・安全に働ける状況を作っていこうという思想が反映されている。

本書でも度々言及されているが、性をめぐる議論には個人の価値観が持ちこまれやすく、ことにセックスワークに関しては意見が対立する。「性産業は根絶・禁止すべき」「性産業で働いている女性は救済しなければ」といった意見は、筆者自身、性に関わる仕事をする中で共に働く人々からも何度も耳にした。相談事業等に携わる中で、ひどい被害の実態を見聞きしてきたのだろう。しかし、RC-NETの岡田実穂氏が第3部でセックスワーカーを被害者として考えていた過去を述懐しているが、「そこには、単純に、私自身のセックスワークについての無知と、スティグマがありました」。

狭い範囲だけを見て価値観を固めていないか疑い、自身の中にある偏見や差別心を振り返り、セックスワーカーも含めて全ての人の人権を守るにはどうしたらいいのかを考え、議論するための土台として必読の一冊だと思う。(日本性科学連合事務局長 今福貴子)



12月2日(日)～4日(火)



第32回日本エイズ学会学術集会・総会 ゼロを目指して今、できること

Toward “Zero”- What I can do.

内 容

- 会長招聘講演 満屋裕明〈国立研究開発法人国立国際医療研究センター研究所〉
- 特別講演 Robert W. Shafer 〈Division of Infectious Diseases Dept of Medicine, Stanford University〉 他
- シンポジウム・共催シンポジウム
- ワークショップ ● ポジティブトーク
- 日本性感染症学会と日本エイズ学会の合同シンポジウム
- メモリアルサービス
- 市民公開講座 等

詳細はホームページをご覧ください (<https://www.c-linkage.co.jp/aids32/>)

会 場

大阪国際会議場／大阪市中央公会堂

問い合わせ先等

運営事務局／株式会社コンベンションリンケージ (〒531-0072 大阪市北区豊崎3-19-3 PIAS TOWER 11F)

TEL : 06-6377-2188 E-mail : aids32@c-linkage.co.jp

学術事務局／独立行政法人国立病院機構大阪医療センター (〒540-0006 大阪市中央区法円坂2丁目1-14)

12/15 (火)

9:30～16:00

第153回 指導者のための避妊と性感染症予防セミナー

【プログラム】 講義Ⅰ「脅かされてきた (いる) 日本人女性のリプロダクティブ・ヘルス/ライツ」

講義Ⅱ「子宮頸がん HPV ワクチン」

講義Ⅲ「性犯罪被害者への医療支援」

質疑応答

【講 師】 北村 邦夫 (一般社団法人日本家族計画協会 理事長)

上田 豊 (大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学教室学内講師)

種部 恭子 (女性クリニック We!TOYAMA 院長)

【会 場】 パピヨン 24 ガスホール (福岡県福岡市博多区千代1-17-1)

【問い合わせ先等】

主 催／一般社団法人日本家族計画協会

受講料／5,400円(税込)、思春期保健相談士の方は3,240円(税込) ※「学校・団体一括申込」の場合、教員・学生とも3,240円(税込)

定 員／150名(12月9日まで受付中)

対 象／医師、保健師、助産師、看護師、養護教諭、看護教員、教職員、カウンセラー、薬剤師、他(教育・福祉関係者等)

問合せ先／〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館 一般社団法人日本家族計画協会 研修担当

TEL 03-3269-4785 URL <http://www.jfpa.or.jp>

若者の性にかかわる行動、規範意識、情報源などが、
この6年間でどのように変容したかがわかる。
若者の性を理解するための必須の資料！

緊急出版 !!
全国調査による
最新のデータ

青少年の性行動

わが国の中学生・高校生・大学生に関する第8回調査報告

編集／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）
「第8回青少年の性行動全国調査」委員会

日本性教育協会では、1974年に第1回調査を開始し、以来ほぼ6年ごとに「青少年の性行動全国調査」を行ってきました。日本の青少年の性行動や性意識の変化を全国規模で把握することができる貴重な調査データとして国内はもとより国際的にも認知されています。

このたび、2017年6月から同年12月にかけて実施した「第8回青少年の性行動全国調査」の単純集計がまとまりましたので、一次報告として刊行しました。主要な結果「デート経験」「キス経験」「性交経験」などの解説と、全質問の中学生・高校生・大学生の男女別集計結果が掲載されています。

※なお、今回の調査に詳しい分析を加えた報告書『『若者の性』白書 第8回青少年の性行動全国調査報告（仮題）』につきましては、2019年刊行予定です。



A4判 80ページ

頒価：1,000円

送料は別途。詳しくはJASEウェブサイトを確認してください。

JASE ウェブサイトよりお申し込みいただけます！

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/seikoudou8.html>

※インターネット環境がない場合は、JASE(電話 03-6801-9307)までお問い合わせください。

●本書に関するお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

一般財団法人 日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-3-23 春日尚学ビル B1

TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478

Mail info_jase@faje.or.jp URL <https://www.jase.faje.or.jp>



JASE